



中村さんの日常や農作業風景をSNSでチェック!



- ①中村さんのトウモロコシ畑。「農業を始めて3年目になるが、毎日新しい発見があり、楽しいです。」
- ②収穫したブロッコリー。他にキャベツやトウモロコシ、なす、そら豆なども栽培。
- ③公恒くんにとっては、お父さんの仕事場も遊び場になる。
- ④試験的に栽培しているというガラスジェムコーン。フラワーアレンジメントや観賞用として◎。
- ⑤趣味で始めた革細工は10年目に突入。農作業後の気分転換になる。
- ⑥財布・コインケース・名刺入れなど、さまざまな革細工を製作。町のふるさと納税の返礼品にも登録されている。

住人十彩

2020 May
#1 ~中村 優希さん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は農業と革工房を両立している中村優希さん(島地)です。



熊本地震を機に地元へ

中村優希さん(32)は、両親と妻の真実さん、長男の公恒くんの5人家族。
現在農業の傍ら、真実さんが代表を務めている革工房で、革細工の製作に取り組んでいる「2刀流」だ。
竜北中学校では柔道、玉名工業高校に進学後はレスリングに打ち込んだ。特にレスリングでは3年時にインターハイで団体準優勝、平成17年の国体で個人ベスト8の成績を残した。

「学生時代にかなり鍛えられたので、少々このことでは動じなくなりました。」と中村さんは笑いながら話す。

高校卒業後は陸上自衛官となり、国の安全を保つために最前線で活躍した。

そんな中村さんだが、平成28年熊本地震や結婚を機に、生まれ育った地元へ貢献したいという思いが強くなり、12年間勤めた陸上自衛隊を退官。
平成30年3月に氷川町に戻り、就農した。

試行錯誤の毎日

「帰省した時には両親の手伝いをしていて、少しは知っているつもりだったので、どうにかなるだろうと思っていただけで、甘い考えでした。」と中村さん。

農作物の品種や専門用語など、覚えることがたくさんあり、農業機械の操作もほとんどしたことなかったため、なかなか思うように作業が進まず、試行錯誤の毎日だった。

そんな時助けになったのが地元の商工会や消防団などの地域コミュニティ。

地域の活動に積極的に参加し、色々な話を聞く中で、「自分だけでは気づかなかった地元の良さがたくさんあることがわかり、奮起できた。」と中村さんは言う。

「将来は農業と革工房を販路拡大し、地元の雇用創出に貢献したい。」と語る中村さん。

農業と革工房を頑張る中村さんのこれからの活躍に期待。

募集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係
☎0965-52-5850

メール：
kouhou@hikawa.kumamoto.jp